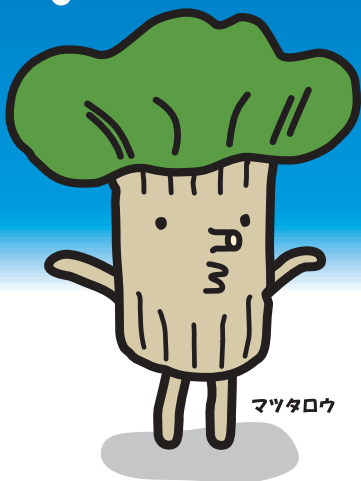


KIZUNA レポート

第95期 中間期

2024年4月1日～9月30日

つなぐを
化学する



荒川化学工業株式会社





株主の皆様へ

代表取締役社長

高木 信之

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第95期中間期の業績をご報告するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間連結会計期間の国内経済は、一部に足踏みが残るものの、雇用・所得環境が徐々に改善し、緩やかに回復しています。世界経済は、米国において利下げが開始されたものの、高い金利水準が継続しており、中国における不動産市場の停滞に伴う影響や地政学リスクの高まりなど、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、2021年度よりスタートしました第5次中期5ヵ年経営実行計画の方針（**KIZUNA**経営の推進と**KIZUNA**指標の達成）に沿った重点施策を進め、コア技術・素材を中核とした事業ポート

フォリオ改革や新事業の創出などによる持続可能な地球環境と社会を実現するための取り組みに注力しております。特に、事業ポートフォリオ改革においては、既存事業の収益力の回復にも努めており、ロジック誘導体・サイズ剤事業等における製造拠点の統廃合を進めております。

業績面では、スマートフォンの出荷台数やデータセンター投資が回復傾向にあるなど、電子部品の需要環境は回復基調で推移しており、機能性コーティング材料用の光硬化型樹脂やハードディスク用精密研磨剤などが堅調に推移しました。また、海外において板紙向け紙力増強剤や粘着・接着剤用樹脂の販売が堅調に推移したことが業績に寄与いたしました。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は393億27百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益は3億13百万円（前年同期は営業損失18億27百万円）、経常利益は3億13百万円（前年同期は経常損失14億51百万円）、親会社株主に帰属する中間純利益は固定資産売却益9億84百万円の計上などにより16億34百万円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失7億53百万円）となりました。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第5次中期5ヵ年経営実行計画（2021～2025年度）

V-ACTION for sustainability

- ・Vector 方向・進路（サステナビリティ）
- ・Value 価値（企業価値）
- ・Variety 変化・多様性（中計最終時の姿）
- ・Venture 冒険的事業（みつける）
- ・Vitality 活力（働きがいと生産性の向上）

人と事業の新陳代謝の深化、事業基盤の持続性を確保し、持続可能な地球環境と社会を実現するための課題に取り組み、付加価値・新規事業の創出、安全文化の醸成、および働きがいと生産性の向上を目指す

荒川化学グループが掲げるSDGs選定目標



事業の概況

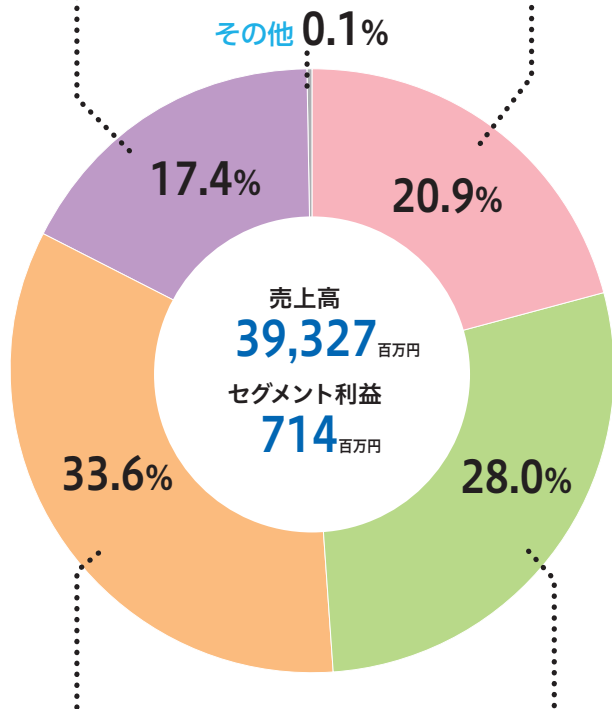
決算ハイライト(連結)

ファイン・エレクトロニクス事業

売上高：6,843百万円
セグメント利益：367百万円

機能性コーティング事業

売上高：8,211百万円
セグメント利益：599百万円



粘接着・バイオマス事業

売上高：13,230百万円
セグメント利益：▲1,292百万円

製紙・環境事業

売上高：10,993百万円
セグメント利益：1,011百万円

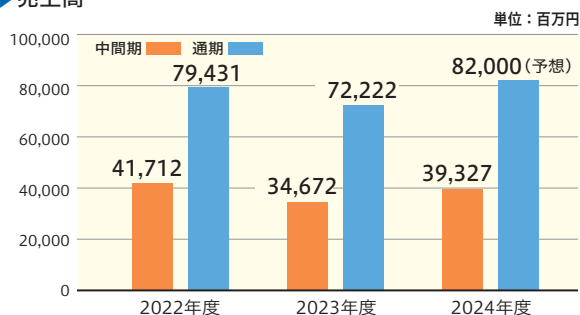
その他 売上高：47百万円
セグメント利益：28百万円

前中間期

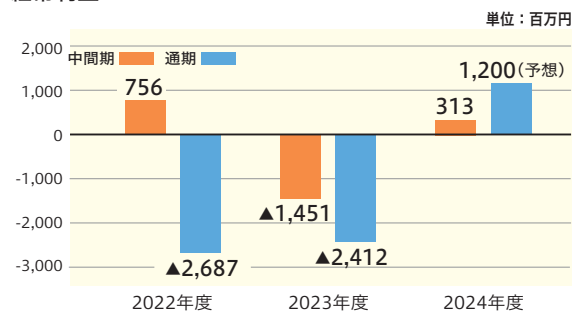
当中間期

売上高	34,672 百万円	39,327 百万円
営業利益	▲1,827 百万円	313 百万円
経常利益	▲1,451 百万円	313 百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲753 百万円	1,634 百万円

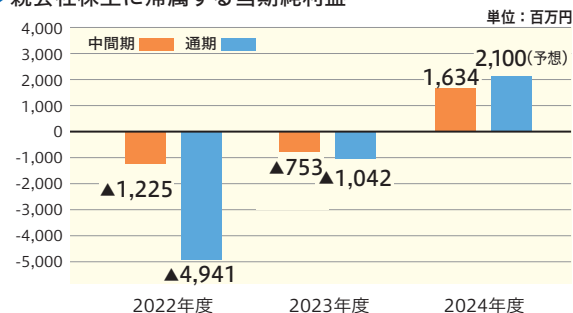
▶売上高



▶経常利益



▶親会社株主に帰属する当期純利益



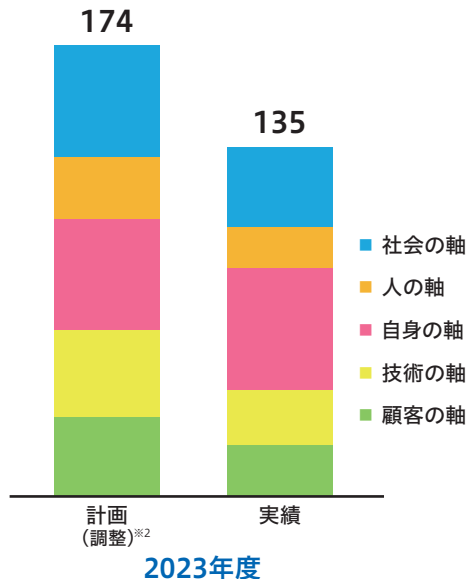
KIZUNA指標の進捗

荒川化学グループでは、2021年度からスタートした第5次中期5カ年経営実行計画 **V-ACTION for sustainability** においてKIZUNA指標^{*1}を導入し、サステナビリティに対する各種取り組みの進捗状況のモニタリング・評価をサステナビリティ委員会でおこなっています。

2023年度の実績は、KIZUNA指標の目標174ポイントに対して達成率78%の135ポイントとなりました。

5つのKIZUNA	各指標に関する進捗(ポイントの乖離)
【社会の軸】 まもる	CO ₂ 排出量削減率は2015年度比53.0%となり、カーボンオフセット都市ガスや再生エネ電気の導入の拡大など2030年度目標を上回るペースで進捗し、保安力評価は向上したものの、休業災害が発生し、計画から乖離がみられました。
【人の軸】 関わりあう	海外駐在員の邦人指数は計画以上の水準で進捗していますが、荒川ヨーロッパ社での製造終了や景気低迷継続などもあり、海外売上高伸長率やバイオマス度換算販売量指数は計画から乖離しました。
【自身の軸】 主役になる	付加価値労働生産性は業績の低迷に連動しておりますが、前年比からは改善し、男性育児休業取得率も66.7%と高い水準を維持し、ミッションをSHIFTした数も計画以上に進捗しました。新たな社会貢献活動による加算もあり、順調に進捗しました。
【技術の軸】 技術の伝承と革新	サステナビリティ製品の連結売上高指数は2019年度比11%アップ、NEXT事業の創出としてベンチャーファンドへの出資(SoPros株式会社:微細藻類事業)が「そだてる」ミッションへ移行や一部製品の製造拠点の統廃合などもありましたが、他の「みつける」からのミッション移行の遅れなどもあり、計画から乖離しました。
【顧客の軸】 お客様と共に歩む	品質クレーム件数の削減率は改善し、持続可能な調達率も順調に推移しているものの、業績の低迷に加え、調達先監査件数が伸び悩み、計画から乖離しました。

課題を認識しながら、社員一人ひとりが意識を高め、自分ごと化としてACTIONすることで個人の成長と会社の成長が連動し、**Well-being**となるように取り組んでおります。



*1 KIZUNA指標は、当社グループにとって優先的な重要課題から設定した「ありたい姿」を実現するための定量化した指標であり、5つのKIZUNAの軸に区分し、各指標に対する配分の重みや進捗によって独自のポイント換算によりモニタリングして管理しています。

*2 サステナビリティ・リンク・ボンドの発行に連動させた指標やプライム市場への移行にともなう追加指標もあり、KIZUNA指標のポイント配分を調整しています。

TOPICS

一般社団法人日本接着学会より「2024年度日本接着学会技術賞」を受賞しました

これまでの「エマルジョン型タックファイヤーの開発」による貢献や進歩を評価され、「2024年度日本接着学会技術賞」を当社社員5名が受賞しました。当社はエマルジョン型タックファイヤーのトップメーカーとしてニーズの変化をいち早く捉え新規技術の開発を行っております。

当社のエマルジョン型タックファイヤーは環境に配慮した水系製品として評価され、食品ラベルなどの粘着付与剤として活躍、日本国内で高いシェアを有し、完全無溶剤型製品の開発、微量に残留する芳香族系溶剤の低減、難接着基材への対応等、これらの技術および製品が独創的かつ極めて優れたものであると評価され、本受賞に該当すると認められました。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



会社概要 (2024年9月末時点)

商号	荒川化学工業株式会社
所在地	大阪府中央区平野町1丁目3番7号
代表者	取締役社長 高木 信之
創業	明治9年(1876年)
会社設立	昭和6年1月(1931年)
資本金	33億43百万円
従業員数	1,670名(連結)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	6月中		
基準日	定時株主総会	3月31日	
	剰余金の配当	期末	3月31日
		中間	9月30日
公告方法	電子公告		
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先 (お問い合わせ先)	大阪府中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)		

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。